海の海から

白浜で出会った生きものたち

⑰

京都大学助教授　久保田　信（京都大学瀬戸臨海実験所）

紀南地方で増えるオニヒトデ

打ち上げ個体も多数発見

連続した台風接近の影響から、8月15日に北浜で珍しいオニヒトデの死がいを発見した。

かなり傷んでいて腐臭がするほどだった。中心部の盤の大きさが約4㌢ほどで腕は15本だった。飼育下では、生後1年ほどで盤径が8㌢に成長するとのことなので、この個体はごく若い個体である。キヒトデやアカヒトデなど普通のヒトデ類と違い、オニヒトデの腕の数は一定していないようだ。体の背面全体に針の山のようにはえている有毒なとげはするどく、見るからに痛々しい。

1970年ごろから紀伊半島沿岸でもオニヒトデが多数出現した記録があり、串本町やすさみ町田名瀬英朋さんが、南部町堺港で水揚げされる漁獲物からいろいろなサイズのオニヒトデを次々と発見し、克明な記録を続けている。また、白浜町のダイビングサービスMiss Oceanのスタッフも白浜町沿岸で採取して実験所に届けて下さった。これらの一部は瀬戸臨海実験所水族館で飼育展示し、成長記録をつけている。興味のある方は来館してほしい。

また、ごく最近、元職員の樫山嘉郎さんが富田浜の打ち上げ物の中から発見された。昨年にも盤が10㌢余りの成体が北浜に打ち上がって、紀伊民報のニュースにもなった。

白浜町沿岸への過去のオニヒトデの出現について、59年から97年までの記録を田名瀬英朋さんとともに南紀生物誌39巻（97年）にまとめた。

意外なことに、本州沿岸へのオニヒトデ出現記録は白浜沖で初めてなされていた。比較的大形で腕長15㌢の個体が、59年2月に、田辺湾沖の瀬戸ケ瀬でのエビ刺し網にかかった記録が、瀬戸臨海実験所元所長の内海富士夫教授により報告されていた。

その後の記録はそれから15年を経た74年11月で、白浜沖でエビ刺し網操業中に捕れた1例である。翌年の75年の夏から秋にかけて、塔島周辺で26個体が潜水採取された。水深1・5㍍から直径13㌢と15㌢の2個体が佐々木賢太郎氏により、24個体が田名瀬英朋さんによって発見された。これらは、腕の先端から反対側の腕までの長さ（長径）が4・5㌢から22・2㌢までと、いろいろなサイズのものがいることがわかった。飼育下では2年で20㌢に達するとのことなので、冬越した個体もいたことになる。驚きである。

その後、捕獲や発見例はなかったが、97年7月3日、22年ぶりに筆者が長径22㌢の越冬個体を発見した。この個体も、偶然、塔島の岩礁で採取された。水深3㍍地点にある、小形のミドリイシの一種の上面全体におおいかぶさっていた。本場の南西諸島での摂食行動は夜なのだが、このときは午後3時ごろ見られた。

ヒトデ類は世界に2000種ほど知られているが、オニヒトデはたった1科1属2種の小さな分類群である。紀伊半島沿岸のあちこちで、最近、オニヒトデの近縁種で、有毒のとげの生え方が異なる別種も発見されている。

◇

オニヒトデが田辺湾など県沿岸に、どこからどのようにやってくるのだろうか。それは、連載41回のホシダカラガイと同じ仕組みによる。

南西諸島などでオニヒトデの子ども時代である浮遊性のビピンナリア幼生が誕生の後、黒潮に乗ってプランクトンとして運ばれくる。1シーズンにオニヒトデ1個体の雌から生まれる幼生の数は約1000万個と膨大な数なので、本場で生息数が多い時には和歌山県沿岸にも多数流れ寄り、環境さえ整えば越冬して成長を続けていくのである。

オニヒトデの天敵はホラガイだが、ホラガイの生息数はそれほど多くなく、乱獲によってその数が減っている。このため、何らかの理由でオニヒトデが大発生してしまうと圧倒されてしまう。田辺湾周辺ではホラガイの仲間であるボウシュウボラやオオナルトボラがオニヒトデを食べていると思われるが、同様にその数も激減している。

◇

オニヒトデは沖縄諸島以南の太平洋やインド洋の熱帯海域に広く分布する。さんご礁の発達した沖縄島では、1970年から83年までの14年間になんと1300万個体のオニヒトデが駆除された記録がある。この時期には、八重山諸島の石西礁湖でも大発生の記録が残っており、82年だけでも約27万個体を駆除したというすさまじさだ。

8月13日付の紀伊民報で、串本海中公園センターによる生物調査の結果が掲載され、「オニヒトデがいつ異常発生しておかしくない状態で、温暖化の影響もあり、監視をかねた駆除活動の継続が必要」と心配する記事が掲載されていた。オニヒトデは生態系の中で何らかの大事な役割を果たしているのだが、大量発生してしまうと厄介な生き物なのでやはり注意が必要だ。

瀬戸臨海実験所水族館で飼育展示中のオニヒトデをバックヤードから撮影（田辺湾周辺海域産）

2004年8月15日に北浜に打ち上げられた幼体の背面（上）と腹面（下）